

でこぼこ・ひだまり合同研修会研修会 報告

1. 講師：福岡子ども短期大学教授 武部 愛子 先生
2. 講演：スクールカウンセラーから見た子育て～思春期・不登校・特別支援教育～
3. 時間：平成28年9月29日（木）19時より
4. 場所：福岡市立内浜公民館学習室
5. 内容 ○講演 ○質疑応答（事例アドバイス） ○個別相談

近年、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わってきており、親も自分の子どもの変化に追いつけていないこともあります。今回も、福岡子ども短期大学教授で長年スクールカウンセラーとして子どもたちや保護者にかかわってこられた武部愛子先生を講師に招いて内浜公民館学習室で研修会を持ちました。主な内容は子どもの発達障がいと、そのとらえ方・親の関わりかたなど基本的な話をしていただいた後、質疑形式で今保護者が困っていることに対して具体的なアドバイスをしていただきました。最後に個別面談の時間では個々の悩みに対して相談に応じてもらい21時過ぎに終了しました。19時からの研修会でしたが31名の参加がありました。

- ・発達障がい：視覚情報や聴覚情報などの認知の障がい。8割以上の人と認知の仕方、考え方が一致しない。学校で学習を進めていくとき、授業などは平均的な考え方に合わせて進むが、発達に課題があると感性が違うので盛り上がる場所が違う。「なんでわからないの?」というのは認知のずれがあるから。認知のずれが起こって本人がわかっていないのと言われても理解できない。まして「おこられる」とパニックになってしまう。理解させるのに時間と根気が必要なことを覚悟して対応する。
- ・発達障がいはこだわりの強い自閉系と集中力がないなどの多動系に大きく分かれている。課題が多い衝動性が強く、攻撃性が高い場合は二次障がいの可能性がある。
- ・障がいは病気ではない。恒久的に続くもので変わらない。それを直すのではなく、それを持って生きていく。病院は治療するところであって病気でなければ治らない。しかし、生き方の工夫を学習することはできる。リハビリと考えて対応していく。
- ・個性として認めていく。本人が悪気なくやっていることを認めていく。
- ・発達のばらつき。成長の進度にもみんな差がある。（人は必ず何らかの発達障がいを持っている）
- ・集団との認知のずれが大きくなると集団の適応が難しくなってくる。特に同年代での適応は難しい。（適当にやるということができない）
- ・「認められる・頑張ったことをほめられる」結果が出なくても応援すると自分の中から頑張る力が出てくる。
- ・自分の弱点を知る。欠点ではない。対応策を講じるエネルギーが必要。

- ・他者に対しては強く言うが自分が言われるのは弱い。（傷つきやすい）
- ・経験をしたことは身になるが、マイナスの経験を積みせると不安や立ち止まりになる。
個に応じた合理的配慮:スモールステップを設定し、予習的な学習中心に取り組む。
- ・学校に行かないのは学校で困ったことがあるから。多くの人と見方考え方が違ってくる
と困ることが多くなる。特に先生や周囲の子どもの多くと理解・価値観が違ってくる
とやっつけられない。本人は「なぜこれが理解できないのか」と言われても困る。結局避ける・
逃げることから不登校になることもある。
- ・自信を持ってやったことが否定される。（善意や好意で助言されても）本人は否定され
ていると感じ自信を失う。
- ・経験したことは身になるが、マイナスの経験を積みせると自尊感情も低くなりこもるこ
とになる。そのためにも、合理的配慮が必要。スモールステップを設定し、予習を中心
に取り組む。事前に見通しが立っていると安心して取り組めることもある。
- ・発達検査についての説明がありました。（幼児用の「WPPSI(ウィプシー)」、児童生徒用
の「WISC(ウィスク)」、「WAIS(ウェイス)」や田中ビネーなど）8割の子どもが答
えるであろうことが正解なので数値だけではわからないところもある。

質問：中三男子親：ゲームにはまって課金が大きくなってしまった。よい対応方法は。
基本的に課金はやめたほうがよい。本人もわかっていないのできちんと話すこと。本人が
嫌がることを伝える時やトラブルになりそうな時は「言い捨てて外出する」目の前にい
ると文句を言いたくなる。親は十分考えて意を決して言うが、子どもにとっては不意打ちで
しかない。

質問：高校女子親：学校の先生方は「発達障がい」の研修をやっているのか。
全員研修を受けているはず。理論と行動に不一致。感性、経験の問題。社会に出たとき学
校であったことが実社会でもあることを知るのも大切。

質問：中三の女子親：家にいると暇そうにしている。どうしたら外に出ることができるか。
本人は外に出たときやれそうな気がしない。心の健康が保てるようになったらそろそろ行
こうかな。その子にとって必要な時間をかけておとなになっていく。

質問：中二の女子親：行ったりいかなかったり・・・嫌なこと「学校とか他人とか」を避け
てばかりで将来が心配。「勉強する意味が分からない」という。

今、苦手なことが将来にわたって苦手であるとは限らない。今できることをやろう。何
でも一からすべてやことはしない。継続が大切。少しずつでもいいから毎日やる。

質問：中三の女子親：生活のリズムが崩れている。このまま甘やかしていいのだろうか。
基本は甘やかしていい。今は本人が甘えたいと思っている時。必要なときは離れていく。
年齢や時期は関係ない。子どもによっては関わり方がわからず、親を試していることもあ
る。（親子関係の確認）

質問：親：病院で診断を受けるか。

発達障がいとは精神疾患（うつ病など）とは違う。診断を受けることによって周囲が本人に対してきちんと対処してくれるのであれば診断がつくことはプラスになる。ほとんどの売はつきり対応ができるものではない。確定は難しく、病院によって診断名が異なることもある。

家庭の役割は子どもが何を言っても受け止めること。いかに丸ごと受け止めることができるか。子どもの話すことは経験をして感じたこと。元に戻ることができない経験。こうしたらよかったといわれても自分が否定されたとしか感じない。いっそのこと『大変だったね。』とねぎらってあげたほうが受け入れられる。本人はわかってもらいたいのは気持ちだけ。アドバイスを求めている。過ぎた時間は取り返せない。自身が回復するように応えてあげる。100%の受け止めをする。これができないと受け止めてもらえなかった、わかってもらえなかったと感じてします。

心が健康であることが大切。心の健康度を上げていくためには日常の会話が弾むこと。「学校以外のことは話せる。」「休みの日は元気」はいいこと。

言葉のやり取りをすることで不安はなくなる。自分なりの対処を考え、「いいんじゃない」といってもらえることが安心できる。想定を超えたことでもやり取りすることによってだんだんと自分で納めていく。びっくりするような話でもすぐに否定するのではなく普通の会をしながら話していくことによって「自分の考えを言ってもいいのだ」ということを経験しやり取りするうちに対処法を考え慣れていく。



学習会アンケート 集計結果

回収アンケート 18 枚

1. 講習会に参加して、良かったと思いますか？

- | | | | |
|----------------------------------|----|------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> とても良かった | 14 | <input type="checkbox"/> 良かった | 3 |
| <input type="checkbox"/> 普通 | 1 | <input type="checkbox"/> あまり良くなかった | 0 |
| <input type="checkbox"/> 良くなかった | 0 | | |

2. 今後、改善した方が良いと思われる項目と改善法があれば提案して下さい。

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 日程・時間帯 (なし) | <input type="checkbox"/> 開催場所 (なし) |
| <input type="checkbox"/> プログラム構成 (なし) | <input type="checkbox"/> その他 (このままで良いと思います) |

3. 今後、取り上げてほしいテーマがありましたら、お書き下さい。

- (・不登校生徒への対応 ・ネット依存とネットいじめ
・不登校後そのまま成人しひきこもりの上状態になった人への対処法)

4. 感想・ご意見などございましたら、お書きください。

- 子どもの話はしっかり聞いているつもりでしたが、つい「こうしたら。できるよ」って期待して受け答えをしていましたし、心の中で常に思っていました。先生のお話を聞いて、何を言っても受け止めて、受け答えをしていけるように余裕を持って接していこうと思います。心が健康であり続けるよう、家にいていいよって、今できることを認めてあげたいと思いました。ありがとうございました。
- とてもためになりました。ありがとうございました。個人的にもっとお話を伺いたいと思いました。
- 元不登校の当事者であり、ADHD っぽさがある女です。自閉っぽいです。集団が苦手。お話を聞いていると先生の娘様と同じような言動や考え方であることに気がつきました。まだ 7 割くらい当事者気分である自分にも気がつきました。今は私も落ち着き、不登校サポーターとしても活動を始めています。指導者としてのカウンセラー、元当事者としての自分・親目線での考え方を学ぶことができました。先生のお話の仕方ははっきりしていてすっきりします。ありがとうございました。
- 障害があってもなくても子どもにはそれぞれ個性があるので、親として子どもが生きやすく自立できるように接していきたいと思いました先生と娘さんのエピソードをお聞きして、親の思考で会話せず相手の考えを予想しないで考えることが必要だと思いました。ありがとうございました。
- とてもわかりやすかったです。楽しいお話です。今日のお話を子育てに活かして生きたいです。
- 先生のお話はいつも元気をいただけて感謝しています。本当にありがとうございました。「今のあなたが一番いいよ」と言ってあげてね、と昔伺ったことをずっと心の中

に思い出すようにしています。娘さんとのお話がとてもためになります。

- 中学3年生の男の子をもつ親です。中学1年生の体育祭前後から不登校になりました。それから自分自身と子どもとの関わりを考えましたが、やはりコミュニケーション不足だったかなと思います。今日先生の話聞いて、子どもの話をしっかりと聞いてあげられるような親にならなければならないと感じました。ありがとうございました。
- 積み残しのことははっと思いました。高校三年で不登校になり本人にも負担があったのかなと思いました。初めて参加しましたが話が色々聞いてよかったと思います。また、小さいころから人よりペースが遅かったので、小・中・高と学校へ通えるときとまったく通ってない時がありました。最近になっては発達障害？と疑ってしまいながらも様子を見ています。ゆっくりかかわっていきたいと思います。
- 私にも19になるアスペルガーの娘がいます。中3から高1まで人と話をするのも難しかったのですが、今は自分でバイトを探し面接を受け、自分の将来を考えられるように成長しました。(前に武部先生のカウンセリングでも一言も話せませんでした)他者の何倍も成長に時間がかかりますが、武部先生のように日々の会話を楽しみ、心をよりそいあせらずにゆっくりと子どもと成長していきたいと思います。ありがとうございました。
- 個別に先生にお聞きすればよかったと後悔。問いに対してすぐにスポッと回答が出てくるのですっきりしました。子どもとの会話・関係・ちょっとゆっくり見つめなおしてみたいと思います。そして、子どもと私の人生も。
- 発達障害(自閉気味)と診断されたのですが、いまひとつ色々聞いてもどういう障害なのか分からず、色々ネットや本を見ても自分のなかに入ってこなかったのですが、今日の話聞いてとても分かったような気がします。とても分かりやすかったです。先生の話をもっとたくさん聞いてみたいと思うので、また次回参加させていただきたいです。
- 先生のお話の中でうちにも当てはまることが多々あって悩んでいたのですが、それはそれでもいいのだなということで、納得できました。また機会があればお話を聞きたいと思いました。
- 発達障害の具体的な事例を色々とお聞きできたのが良かったです。わが子に当てはめながら、今後の対応をしていきたいと思います。なかなか受け止めて否定せずということができてないです。
- 娘さんの話など、具体的な体験談がとても面白かった。笑いがあるお話しは力が抜けてほっとする。
- 先生のお話を聞いて本当に待つこと信じることを再認識しました。私も先生のようにおおらかに子どもと向き合い、ポジティブに楽しく日々を送りたいと思いました。それは自分しだいだな～と感じました。ありがとうございました。